

ビオトープ

～生物に配慮したため池～

製作者リーダー：環境学部 環境創生学科 3年 北野 瑛詩

製作者：環境学部 環境創生学科 3年 倉持 光一・中泉 拓海・池谷 健太郎

・テーマ

都市化に伴って、いつの間にか失われてしまった生物多様性。

そんな生物多様性をため池に復元することにより、生物保全だけでなく人々への意識啓発を目的として制作したのが私たちのビオトープです。

ビオトープとは特定の生物群集が生存できる特定の環境条件を備えた均質な限られた空間であり、私たちのビオトープは止水性生物を対象にしてあります。

・製作

ビオトープの制作予定地は平らではなく全て傾斜という厳しい条件で、いかに水を貯めるか、平らにするか、また生物に優しい形状にするかを考え外枠を造成しました。塩ビパイプを用いたオリジナルな堤防を一部取り入れました。



(製作前)



(製作後)

外枠造成後に遮水シートをひき、荒木田土・黒土・川砂の三層の土にて基礎を作りました。それぞれ形状、栄養が異なりそれらを組み合わせることにより栄養分・濁り等を配慮しました。また今後、生物を入れる、誘致することも考え砂利や流木を利用し隠れ場所となる場も配慮し設置しています。

基礎の上に、さらに深さや形状、床の素材を変え、深い場所やエコトーンなどを製作しました。これらはビオトープ内に多様性を確保することによって様々な生物にとって生息しやすい場にするを目的としています。最も深い場所で水深30センチほどにな

るように設計してあり、これは水温上昇対策などを含めた設計となっています。
また、ビオトープを製作するにあたりオーバーフロー対策が必要であり、私たちはこの対策としてもう一つ池を隣接させました。ビオトープ内の水位がある一定以上になると池に流れ出す仕組みとなっており、実際に大雨が降った際に役割をきちんと果たしていることが確認されています。



(地形造成)



(オーバーフロー用池)

ビオトープにはショウブ・ガマ・ヒツジグサ・ミソハギ・アサザなどの水生植物が生育しており、梅雨にかけて花が見られます。

・今後の展望

現在ビオトープには植物のみ生育していますが、今後は生物を入れるまたは誘致し、小さな生態系を形作り自然の豊かさや大切さを伝えることができるものにしていきたいと考えております。

製作だけで終わるのではなく、これから維持・管理が重要になってきます。

学生と地域住民が協力し合い、地域行政主体のもと維持・管理し、より良いものにしていくことが必要であると考えています。

